

提出日 平成 23 年 9 月 28 日  
総合管理学部 総合管理学科 4 年 川野優衣

## 祥明大學校短期研修報告書

以下のとおり、研修の報告を致します。

### 1. 研修期間

平成 23 年 9 月 15 日から平成 23 年 9 月 22 日

### 2. 研修の感想

「祥明大學校短期研修で得たもの」

私は、大学を卒業するまでもっと外に目を向けて考えたかったこと、そして今年 6 月下旬に祥明大學の学生を受け入れたことをきっかけに韓国について知りたいと思い、今回の研修に参加しました。お世話になったヘジンは熊本での研修に参加していて、私も話したことがあったため、すぐに馴染むことができました。学生の皆さんは日本語が達者で、何でも話すことができ国を超えた友達を何人もつくることができました。



写真 1 祥明大學の学生たちと



写真 2 ホストファミリー姉弟

私がこの研修で得たものは、友達や家族の大切さ・互いを理解しようとする気持ちなど色々ありますが、報告は主に、韓国の観光・教育・国による歴史の捉え方の違い・家族との言葉の壁の 4 つについて述べていきます。

まずは、【観光】について、2 つ感じました。1 つは外国語での語りかけです。明洞や仁寺洞では、積極的に外国語で観光客に語りかける様子が印象深かったです。やはり、知らない土地に来ている分、不安もあるので知っている言葉が耳に入るとつられて見てしまいます。そこから少し話をしたりすることで観光が楽しい、この国は面白いと感じるのではないかと思います。2 つめに、バスや地下鉄など公共交通網の整備です。自家用車がなくても簡単に観光スポットへ行けることにも気づかされました。特にバスや地下鉄では T-money カードという日本の SUICA のようなカードがあり、細かいお金を準備しなくてもカードをタッチするだけで支払ができるため便利でした。またこのカードは駅だけでなくコンビニでも 1000 ウォン単位からチャージすることができ、必要な分だけを入れることができるため短期間の観光にも非常に便利です。観光については、以前県立大学に勉強にいらした梁先生にもアドバイスをいただきました。私は駅や空港から観光地として魅力ある阿蘇や

天草を結ぶような交通網のさらなる整備とカードの導入で、熊本でも観光客を増やすことができるのではないかと思います。

次に、【国による捉え方の違い】は独立記念館へ行ったときに感じました。日本がアメリカに対して過去のことを意識しているように、韓国は日本のことを意識しており、おそらく事実を伝えていました。教科書には出てこないような残虐的な場面や事件もありました。日本にいただけでは、わからないことも多くあるため、自ら歴史や背景を知ろうとすることの必要性を感じました。

普通ならタブーとされるような「竹島」に関する質問もヘジンに話しました。日本側が国際裁判にかけようと提案したときにどうして韓国側は拒否したのだと思うか。彼女の意見やテレビなどで放送されていることについても聞き、私たちと捉え方、考え方が違うのを本当に感じました。この問題に関して、なかなか韓国の方へ聞くことはできないため、よい機会になりました。国家間の問題ではありますが私たちは、島も領海も半分ずつにすればいいのにね、という話をしました。思い合って共存することも一つの解決策として有りかもしれません。

そして、【教育】についてです。韓国では高校時代に、国語・英語の他に第3言語まで学ぶことがほとんどのようです。第3言語にはたとえば日本語、中国語、ドイツ語を学んだりするそうです。私のホストファミリーのいとこで、高校時代3年間日本語を選択していたという女の子がいました。彼女は大学では全く日本語を使わないのにも関わらず、私と普通に会話をしました。韓国の語学に関する教育は本当にすごいと思います。言葉を単に机上の学びにするだけでなく、使えるまでに至っているからです。言葉を学んで、その国について少し知って、興味を持っている人が外に出て活躍していく。そんな流れが韓国を世界に進出させているのかもかもしれません。例えば最近では、韓国の歌手は自国で売れると日本やアメリカなどでも活躍しています。特にグループでの海外活動は盛んです。彼らの多くは留学を経験したり、得意分野が外国語だったりすることで広く活躍できているのだろうなとも思いました。

さらに、学ぶことについて年齢を気にしないところも私には驚きでした。入学できる年齢になったら大学に入り、金銭的に厳しければ奨学金等を借りて学んでいくことが、日本では普通だと私は思っていました。一方、私が出会った韓国の学生たちの多くは、大学に入るお金がないなら1年休んで貯金していけばいい、途中で留学するための貯金がないなら休学して働いてからでもいい、という考えの学生がほとんどでした。自分のチカラで学ぼうとしているところ、学びに対する貪欲さを私は見習うべきだなと思います。

最後に、【家族との言葉の壁】についてです。ヘジンがいてくれるときには、オンマやアッパの話を訳し、私の言葉も伝えてくれて助かっていました。ただ、彼女がシャワーを浴びたり少しいなかったりすると、どうしても会話がなくなることもあり申し訳ない気持ちになりました。数日たったときに、なんとなく雰囲気の意味が分かってきたり、ドラマを一緒に見ながら韓国語を覚

えてみたりして、心がけて韓国語を使うようにしました。弟とは、なんとか英語で会話することができ、英語力の重要性を感じました。家族とは言葉の壁は感じたものの、お互いが伝え合おうとすることでどうにかなるため、言葉が分からないこと自体は、さほど問題ではないことに気づきました。



写真3 親戚の集まり



写真4 オンマとアッパと一緒に

言葉に関して、私は韓国語を勉強したことがなかったのですが、ホストファミリーとして受け入れをして、それから少し勉強を始めました。今回の研修で、歓迎会の時に初めて韓国語で学生代表の挨拶をしました。



写真5 歓迎会①



写真6 歓迎会②

辞書で調べて作った文章をヘジンに訂正してもらい、どうにか発表を行いました。発音は全くできてなかったと思うのですが、「よかったよ」という一言をもらったことが嬉しく、今後も積極的に言葉を使っていこうと思います。私も、言葉を机上での理解ではなく、使えるように学び、そして言葉を使って考えを深めていきたいです。

私は、1人だけ4年生で代表をさせていただきましたが、3年生のサポートと、後輩たちがしっかりしてくれていたことで無事にこの研修を終えることができました。今回得た気づきや、考えを自分だけのものにするのではなく、今後は多くの方と交流を行い、日韓のみならず視野を広げて様々な国との交流をしていきたいです。

今回、このような貴重な機会をつくってくださり、本当にありがとうございました。私たちのために色々とお世話をしてくださったホストファミリー、祥明大学の皆さん、そして手配をくださった本学職員の皆さんへ感謝をこめて。